

令和7年度

小学校教育課程研究協議会【音楽】

美濃・可茂教育事務所

日時 令和7年7月23日(水) 13:00~16:00

場所 美濃加茂市立加茂野小学校 図工室

【全体主題】

「指導と評価の一体化」を核とした授業改善・学習改善の在り方

1 日程

- 13:00~ 13:10 はじめの会
13:10~ 14:00 音楽科全体説明
14:10~ 16:00 グループ協議①・②

2 当日の内容及び持ち物について

【グループ協議について】

■協議① 題材を通して指導と評価の計画に係る研究協議

題材の内容や時間のまとまりを見通して、単位時間の役割や位置付けを明らかにしたり、どの時間に何を評価するのかを明確にしたりするためにどのような工夫をしましたか。

■協議② これからの実践に生かす「指導と評価の一体化」を図った授業づくり

題材や授業を通して、児童自身が学ぶ意義や喜び、成長を実感できる授業にするために、どのような授業改善が必要ですか。それに関わって、どのような実践(工夫)をしましたか。

※「美濃・可茂地区 小学校教育課程研究協議会 研究協議会テーマ一覧」記載

※上記2つの協議は、ご自身のこれまでの実践をもとに題材計画(評価)の工夫や授業実践を紹介し合い、それぞれの実践をもとに、ねらう児童の姿や教師の意図的な指導・援助(発問や価値付け)の具体等について考え、協議します。

【当日の持ち物】

- 1 小学校学習指導要領解説(平成29年告示) 音楽編
 - 2 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」(小学校 音楽)(国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月)
 - 3 協議会資料(美濃地区は美濃教育事務所のHP・可茂地区はPlantに掲載)
- ※1~3の資料については、紙媒体、データのどちらでもよい。
- 4 グループ協議①②で用いる資料(10部)

自分の実践を説明しやすくするため、テーマに関わる実践について「指導案」、「指導と評価の計画(題材指導計画)」、「教材や実践の様子が分かる写真」などを任意の様式で持参してください。

令和7年度

小学校教育課程研究協議会（音楽科）

全体主題

「指導と評価の一体化」を核とした
授業改善・学習改善の在り方

音楽の授業を通して、子どもたちに付けたい力

美濃・可茂教育事務所



1

本日の予定

13:00～13:10	はじめの会 可茂教育事務所長 挨拶
13:10～14:15	音楽科全体説明
14:15～14:25	休憩
14:25～15:00	グループ協議①※実践交流を含む
15:00～15:10	休憩
15:10～15:45	グループ協議② ※実践交流を含む
15:45～16:00	まとめ・アンケート回答



美濃・可茂教育事務所

2

音楽科全体説明の内容

I 生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育むための指導計画について

II 個別最適な学びと協働的な学びの位置付けについて

III 今後の方向性から

3

表現及び鑑賞の（幅広い）活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、**生活や社会の中の音や音楽（、音楽文化）と豊かに関わる資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

音楽科の目標に関わって

I

II

III

4

生活や社会の中の音や音楽と豊か
に関わる子どもの姿(状態)とは？

音楽科の目標に関わって

I

II

III

5

生活や社会の中の音や音楽と豊か
に関わる子どもの姿(状態)とは？

そのために、音楽の授業で
どのような学びが
必要でしょうか。

音楽科の目標に関わって

I

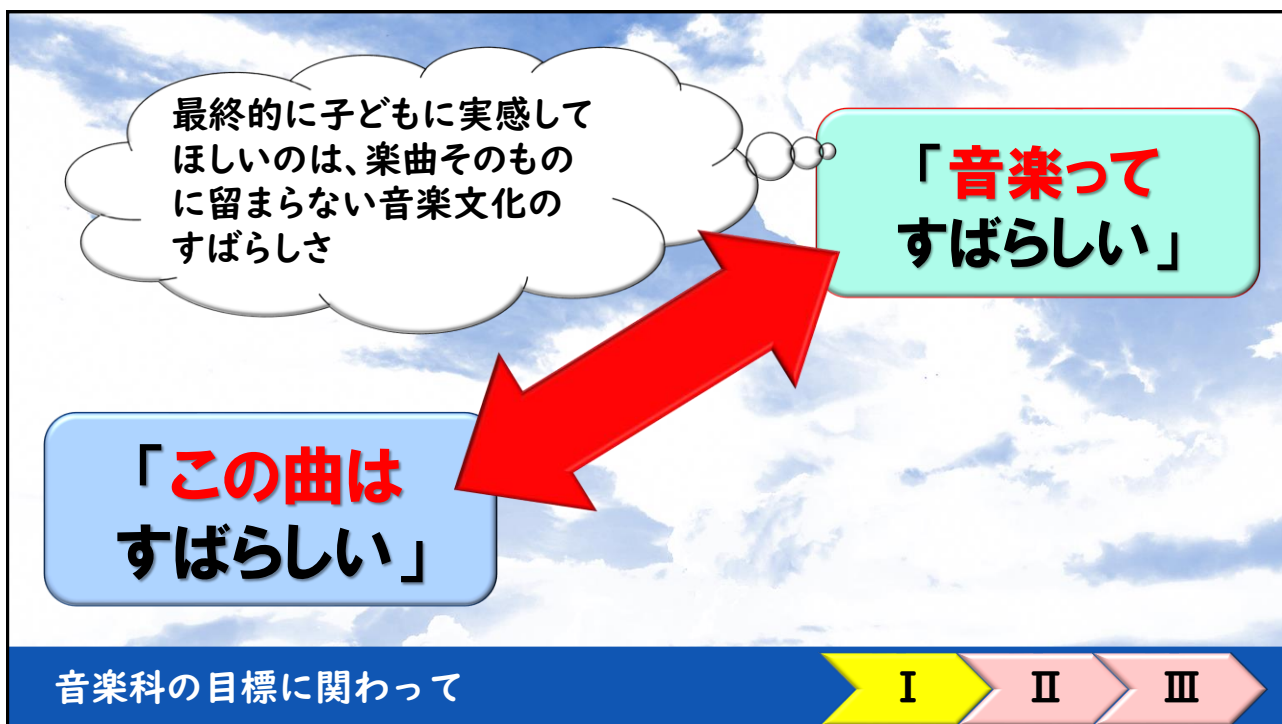
II

III

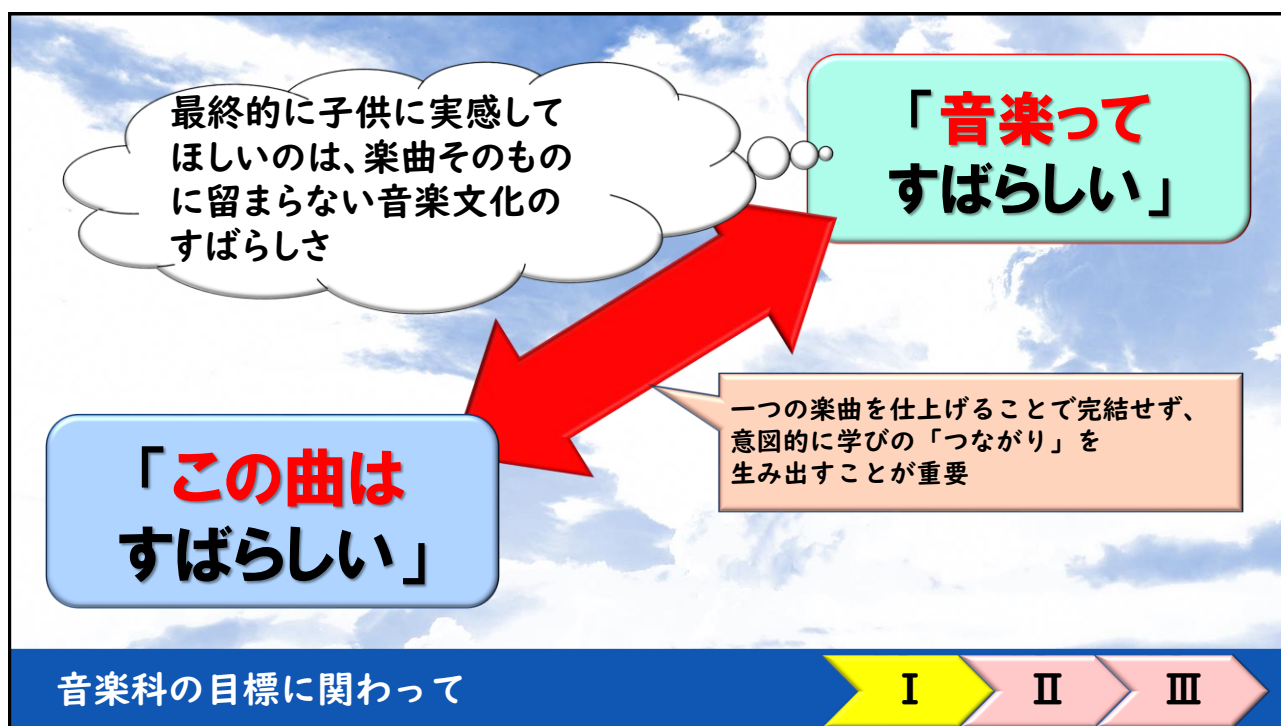
6



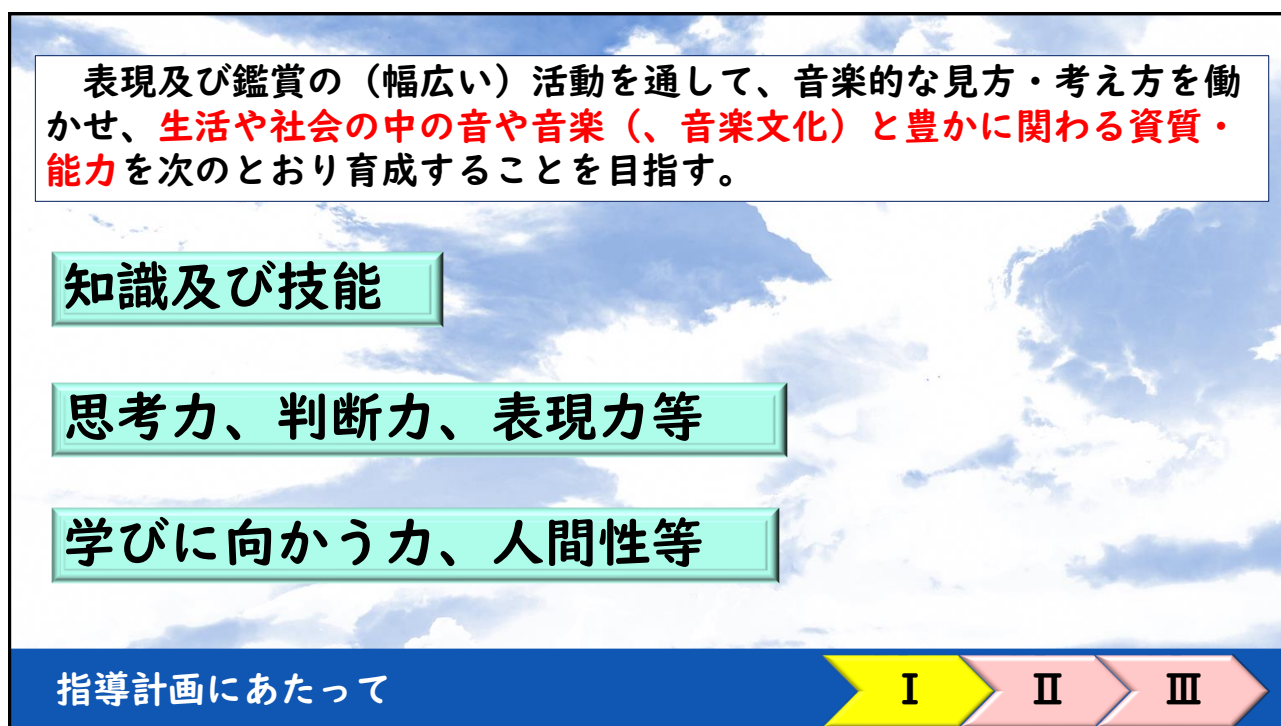
7



8



9



10

目標と内容における資質・能力の系統立て					
資質・能力		知識及び技能		思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
		知識	技能		
教科の目標		(1)		(2)	(3)
学年の目標		(1)		(2)	(3)
内容	表現	イ	ウ	ア	※
	鑑賞	イ	ー	ア	
	〔共通事項〕	イ	ー	ア	

中学校学習指導要領解説音楽編より

指導計画にあたって

I

II

III

思考力・判断力・表現力に関する内容

歌唱	器楽	創作	鑑賞
【共通事項】ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え⇒			
⇒ 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。	⇒ 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつこと。	⇒ 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。	⇒ 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より

指導計画にあたって

I

II

III

思考力，判断力，表現力等

〔共通事項〕ア

音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。

歌唱ア

歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より

指導計画にあたって

I

II

III

13

「思考・判断のよりどころとなる
主な音楽を形づくっている要素」

思考力，判断力，表現力等

〔共通事項〕ア

音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。

歌唱ア

歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

思考・判断・表現の評価規準（例）

音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出す面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，

曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より

指導計画にあたって

I

II

III

14

「思考・判断のよりどころとなる
主な音楽を形づくっている要素」

音色

リズム

旋律

強弱

思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

I

II

III

15

	○学習内容	・学習活動	知・技	思・判・表	態
第1時	○楽曲の歌詞の表す様子や曲の特徴を捉える。 ・ 範唱を聴いて、気付いたことや感じたことを発表する。 ・ リズムや音程に気を付けて、楽譜を見ながら歌う。				
	○楽曲の特徴を捉えて歌唱表現を工夫する。 ・ 各フレーズの「音色」「リズム」「強弱」「旋律」の特徴を捉えて、 表現を工夫する。			思	
第2時	○曲想と音楽の構造や歌詞の内容の関わりについて気付く。 ・ 前時を振り返り、第1、2、4フレーズと第3フレーズを分けて歌う。 ・ 歌いながら、第1、2、4フレーズの「反復」や、第3フレーズの 「変化」について気付いたことをワークシートにまとめる。		知		
	○「反復・変化」をよりどころにして、曲想と音楽の構造や歌詞の内容 との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意 図をもつ。 ・ 第1、2、4フレーズの「反復」と第3フレーズの「変化」に着目 して関連する要素を用いた工夫を考えたり歌ったりする。			思	
	～				

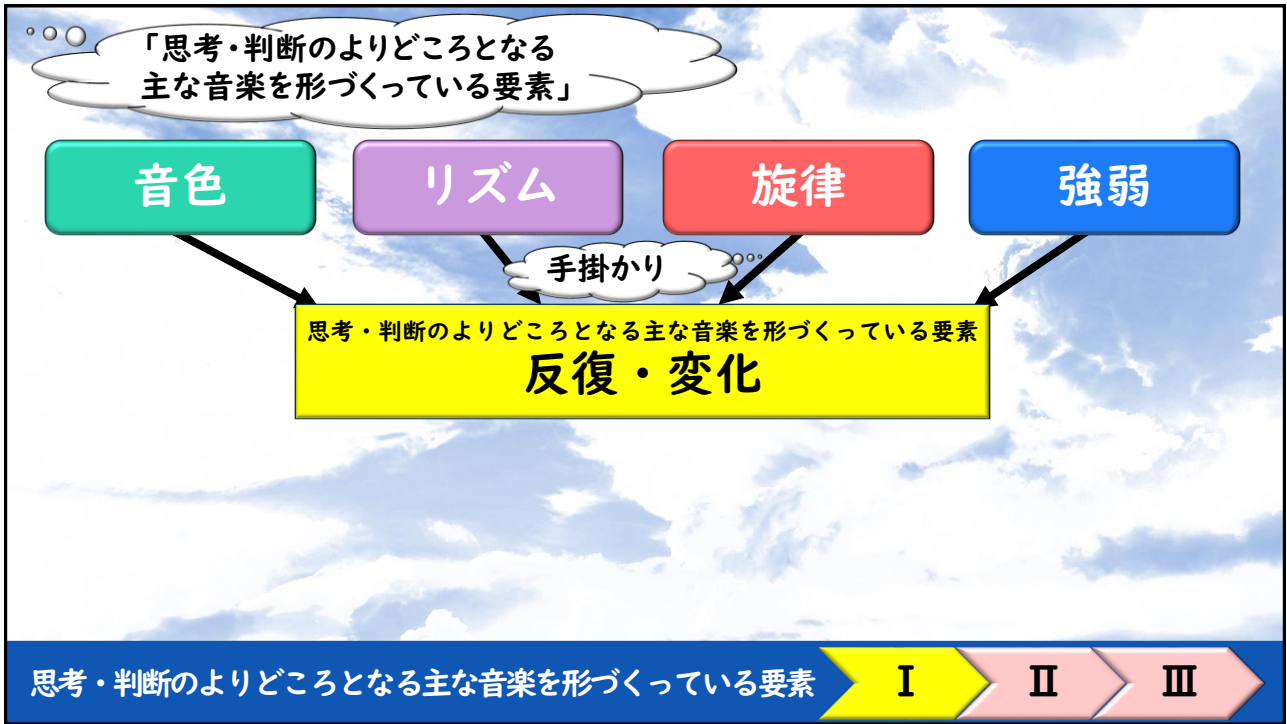
思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

I

II

III

16

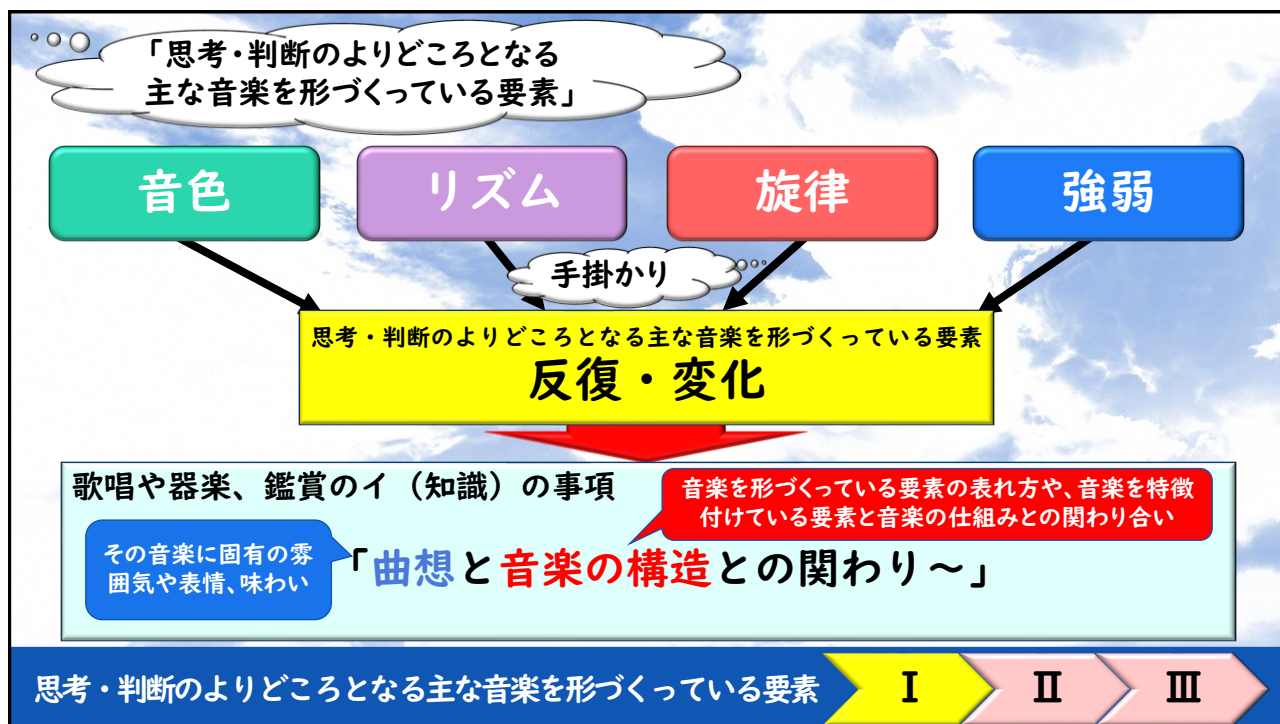


17

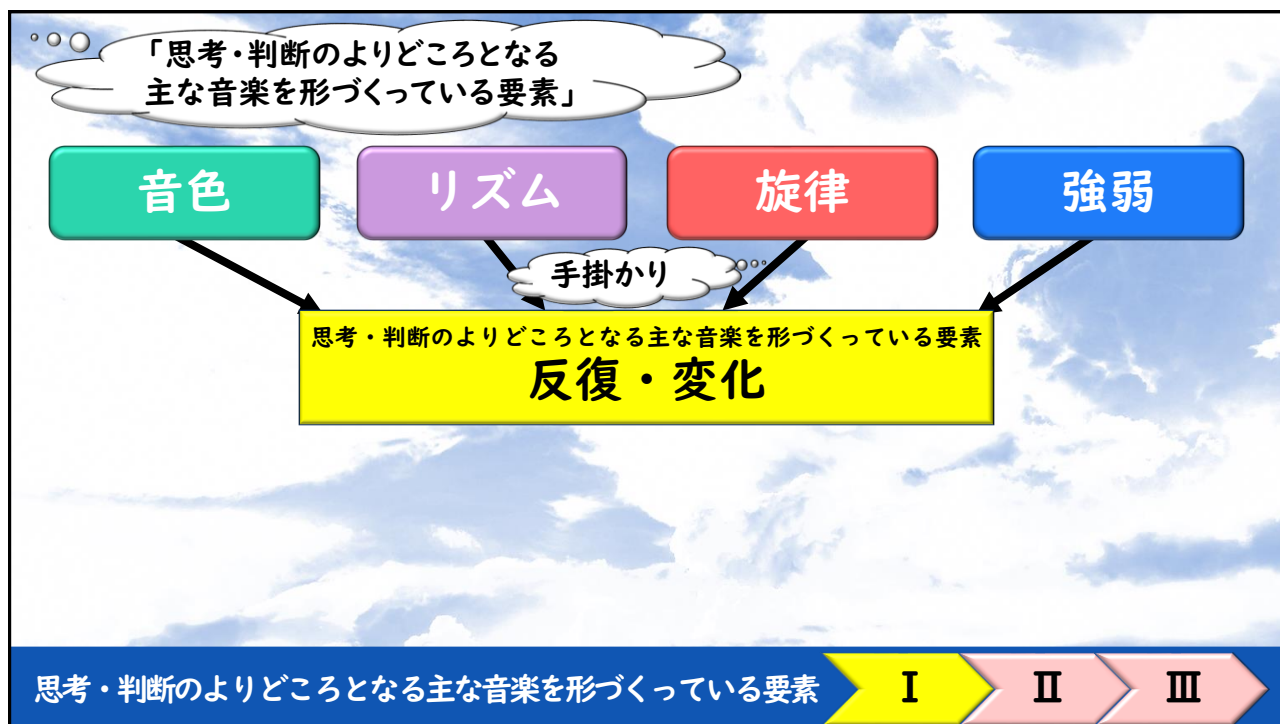
	○学習内容	・学習活動	知・技	思・判・表	態
第1時	○楽曲の歌詞の表す様子や曲の特徴を捉える。 ・範唱を聴いて、気付いたことや感じたことを発表する。 ・リズムや音程に気を付けて、楽譜を見ながら歌う。				
	○楽曲の特徴を捉えて歌唱表現を工夫する。 ・各フレーズの「音色」「リズム」「強弱」「旋律」の特徴を捉えて、表現を工夫する。			思	
第2時	○曲想と音楽の構造や歌詞の内容の関わりについて気付く。 ・前時を振り返り、第1、2、4フレーズと第3フレーズを分けて歌う。 ・歌いながら、第1、2、4フレーズの「反復」や、第3フレーズの「変化」について気付いたことをワークシートにまとめる。		知		
	○「反復・変化」をよりどころにして、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。 ・第1、2、4フレーズの「反復」と第3フレーズの「変化」に着目して関連する要素を用いた工夫を考えたり歌ったりする。			思	
	～				

思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素 **I** **II** **III**

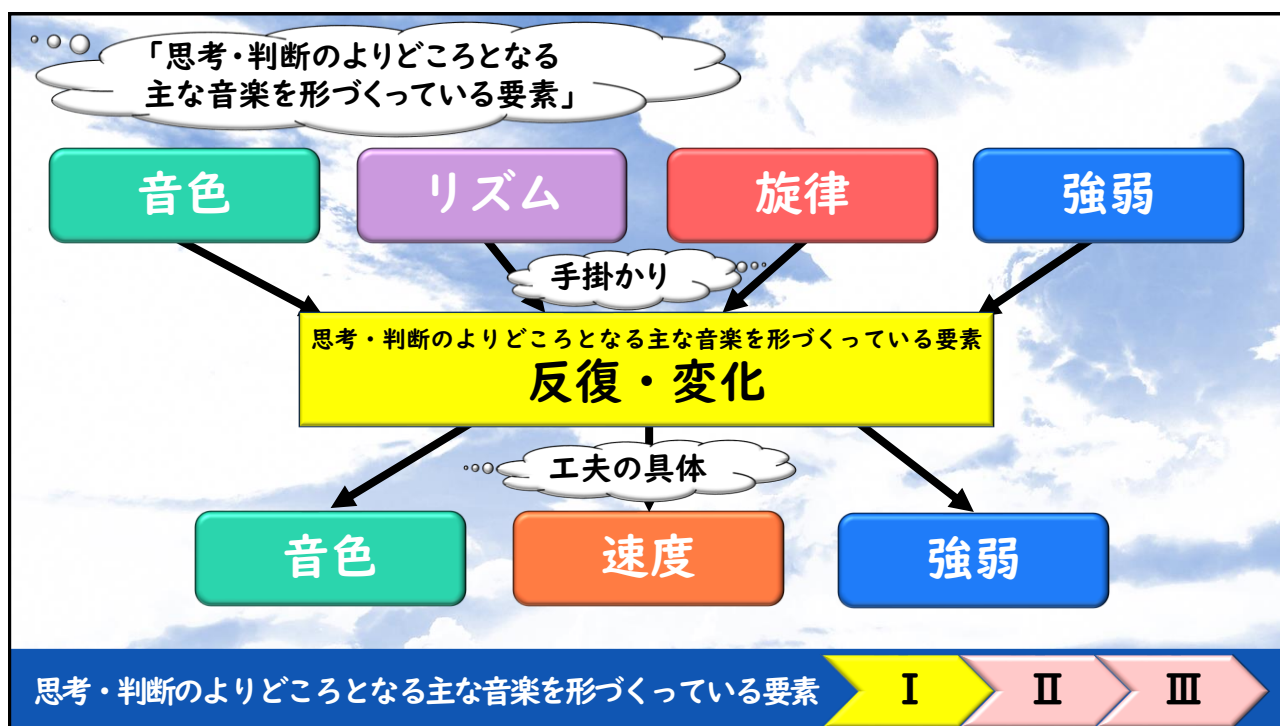
18



19



20



21

「反復・変化」を思考・判断のよりどころにした思いや意図の例

- ・ 第1、第2、第4フレーズは、スピード感を出せるように、弾むような声で歌い
第3フレーズは、のびやかな声で歌いたい。（音色）
- ・ メゾピアノの第1、第2、第4フレーズと対比して、第3フレーズはfになっ
ているので、強く息を吐いて、大きな波の感じが表現できるように歌いたい。
（強弱）
- ・ 第1、2フレーズと第4フレーズを比較すると、すごく似ているけれども、最後
のrit.に違いがある（AとA'の差）から、このrit.を十分にゆっくりさせて消
えるように歌いたい。（速度）

思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素 I II III

22

「反復・変化」を思考・判断のよりどころにした思いや意図の例

- ・第1、第2、第4フレーズは、スピード感を出せるように、弾むような声で歌い、第3フレーズは、のびやかな声で歌いたい。（音色）
- ・メゾピアノの第1、第2、第4フレーズと対比して、第3フレーズはフォルテになっているので、強く息を吐いて、大きな波の感じが表現できるように歌いたい。（強弱）
- ・第1、2フレーズと第4フレーズを比較すると、すごく似ているけれども、最後のrit.に違いがある（AとA'の差）から、このrit.を十分にゆっくりさせて消えるように歌いたい。（速度）

歌唱ウ（イ）の技能へ

思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

I

II

III

23

	○学習内容	・学習活動	知・技	思・判・表	態
第1時	○楽曲の歌詞の表す様子や曲の特徴を捉える。 ・範唱を聴いて、気付いたことや感じたことを発表する。 ・リズムや音程に気を付けて、楽譜を見ながら歌う。				
	○楽曲の特徴を捉えて歌唱表現を工夫する。 ・各フレーズの「音色」「リズム」「強弱」「旋律」の特徴を捉えて、表現を工夫する。			思	
第2時	○曲想と音楽の構造や歌詞の内容の関わりについて気付く。 ・前時を振り返り、第1、2、4フレーズと第3フレーズを分けて歌う。 ・歌いながら、第1、2、4フレーズの「反復」や、第3フレーズの「変化」について気付いたことをワークシートにまとめる。		知		
	○「反復・変化」をよりどころにして、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。 ・第1、2、4フレーズの「反復」と第3フレーズの「変化」に着目して関連する要素を用いた工夫を考えたり歌ったりする。		技	思	
	～				

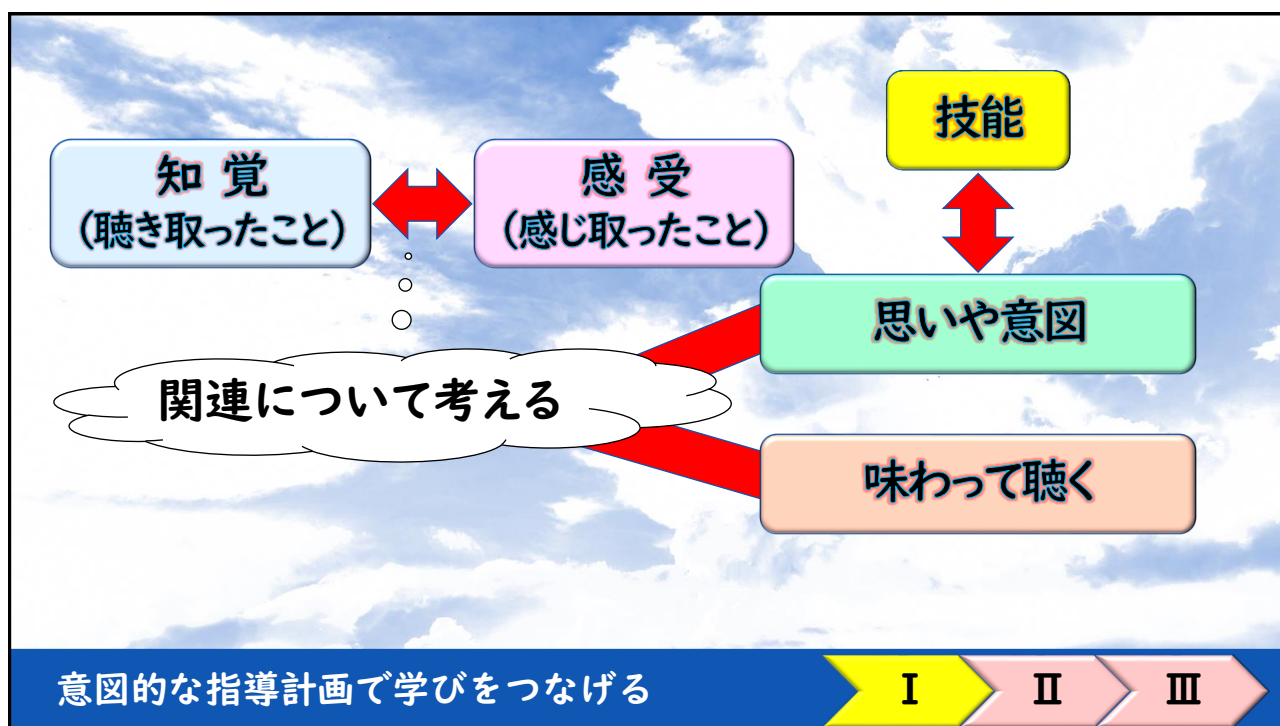
思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

I

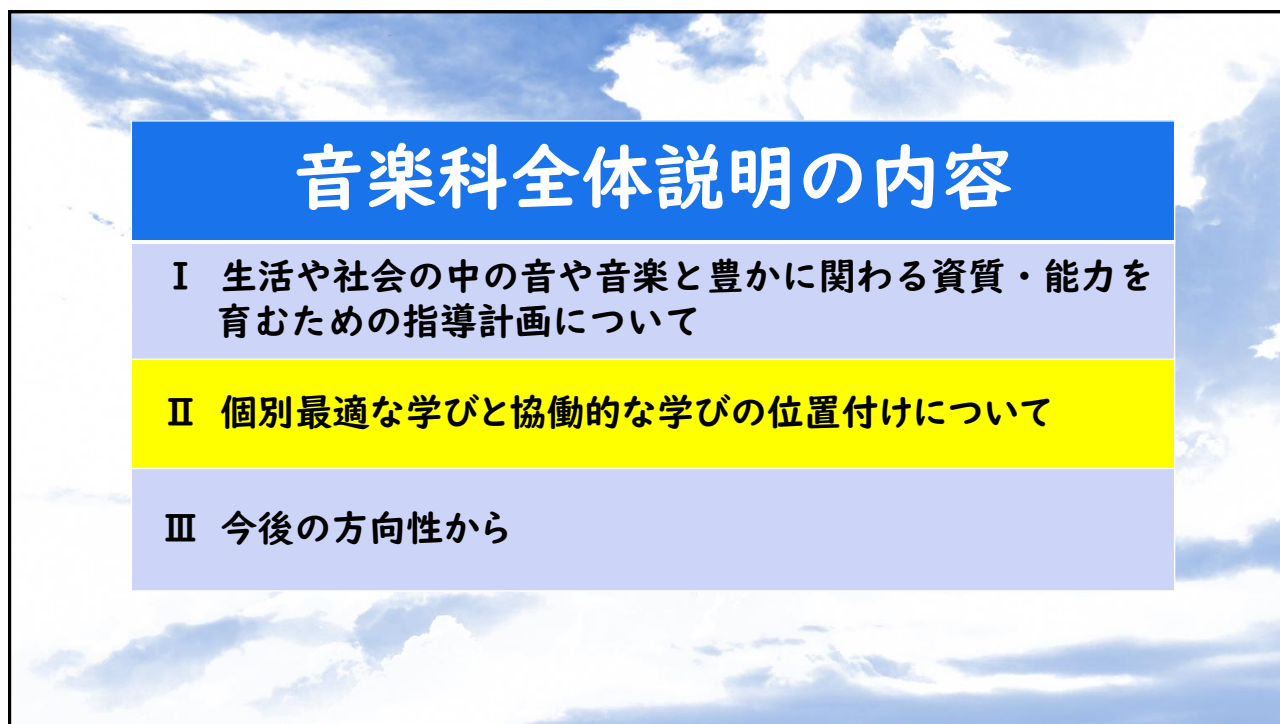
II

III

24



25



26

一斉指導

一斉指導と個に応じた指導

I

II

III

27

一斉指導

どこかに焦点を
合わせる指導

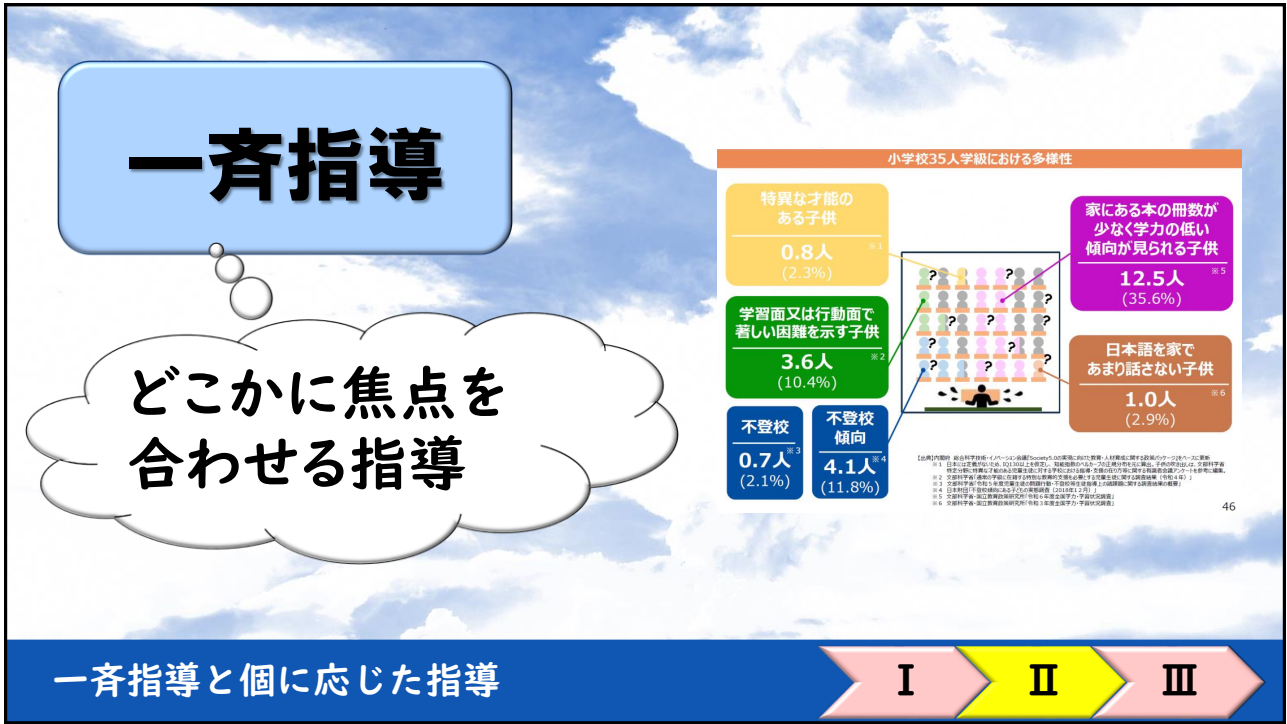
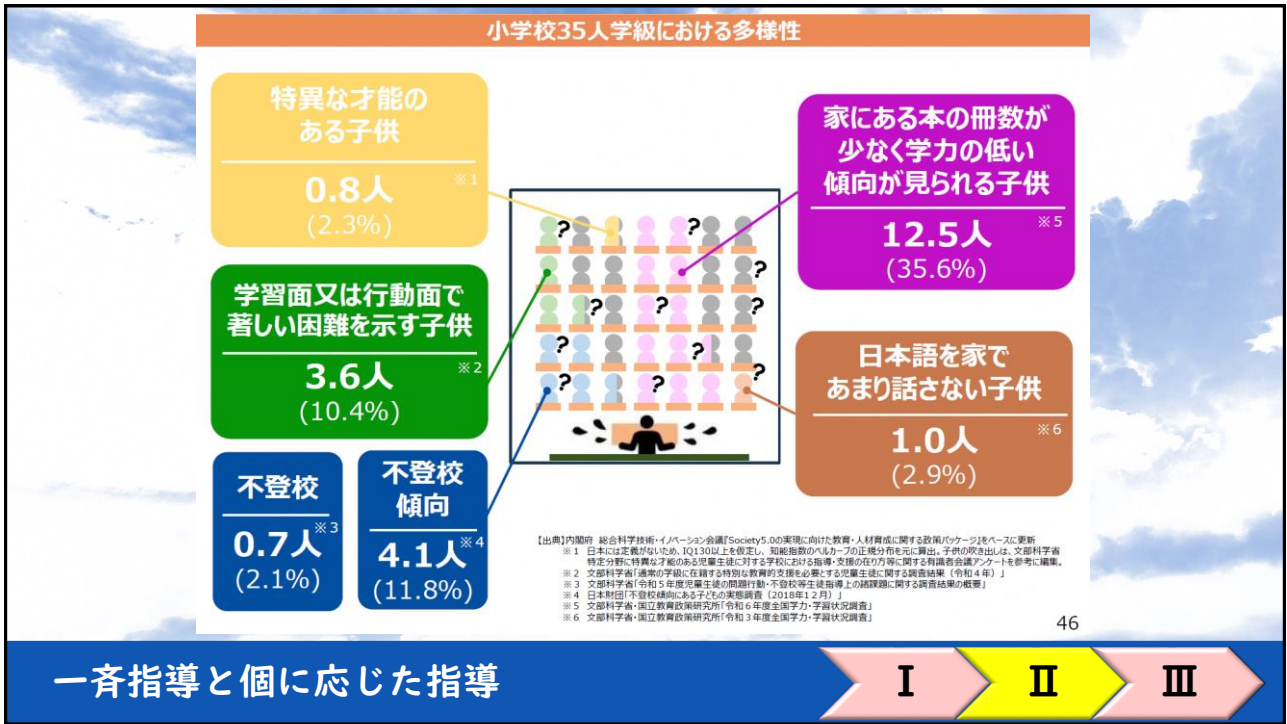
一斉指導と個に応じた指導

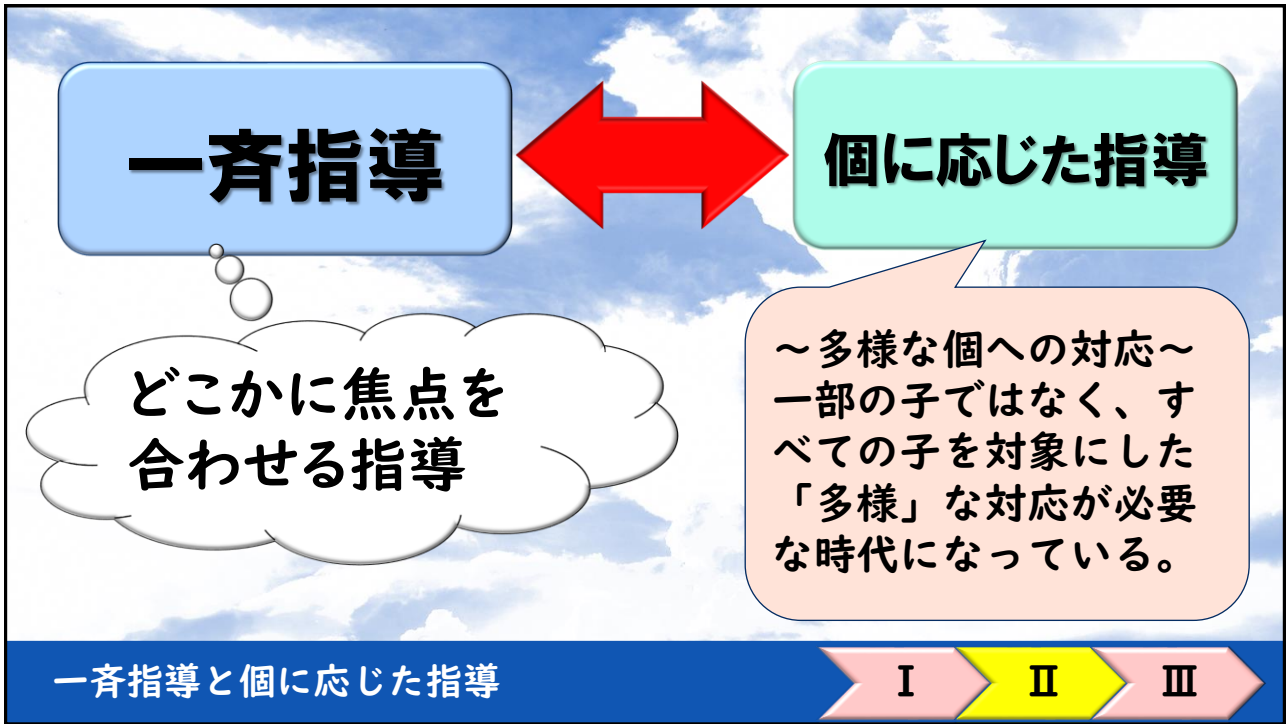
I

II

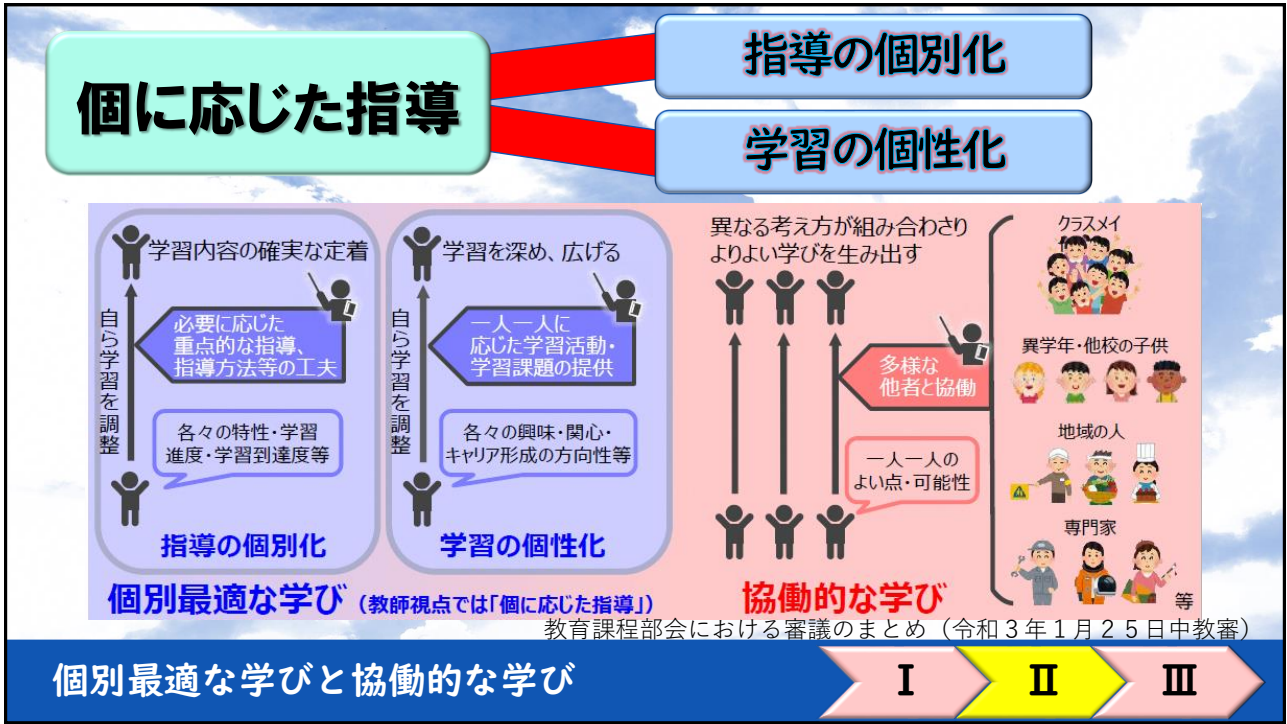
III

28

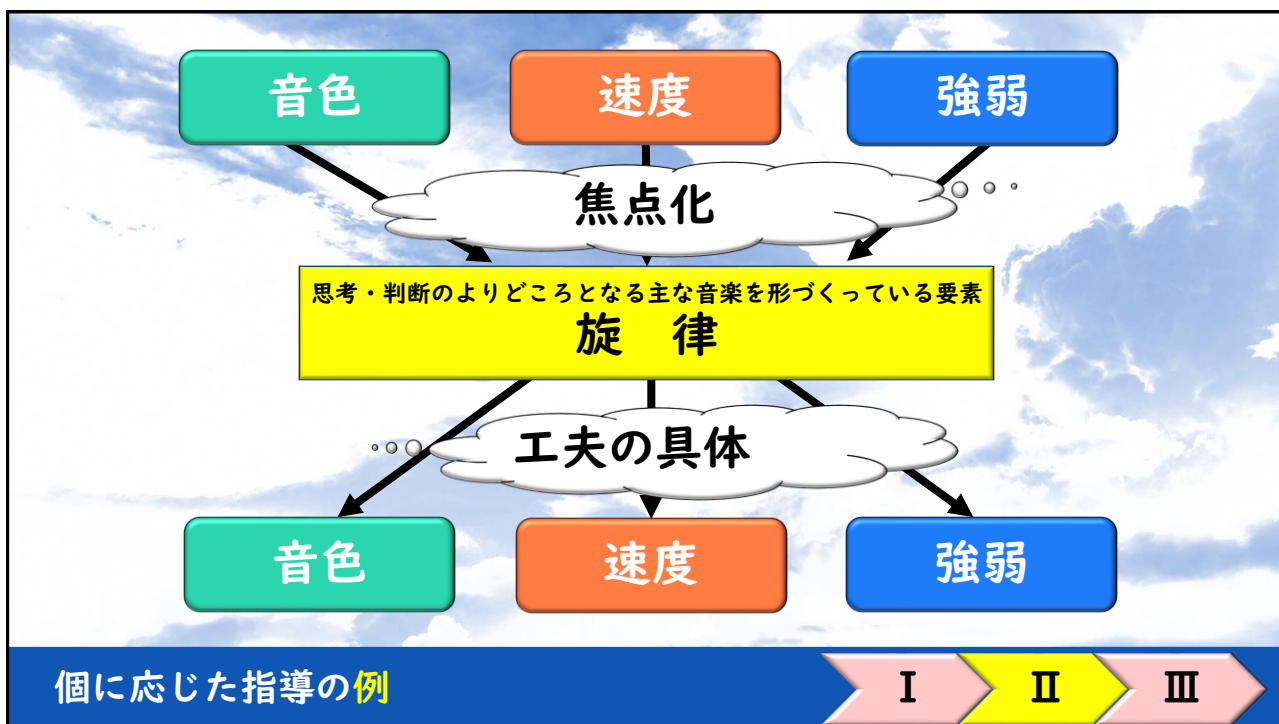




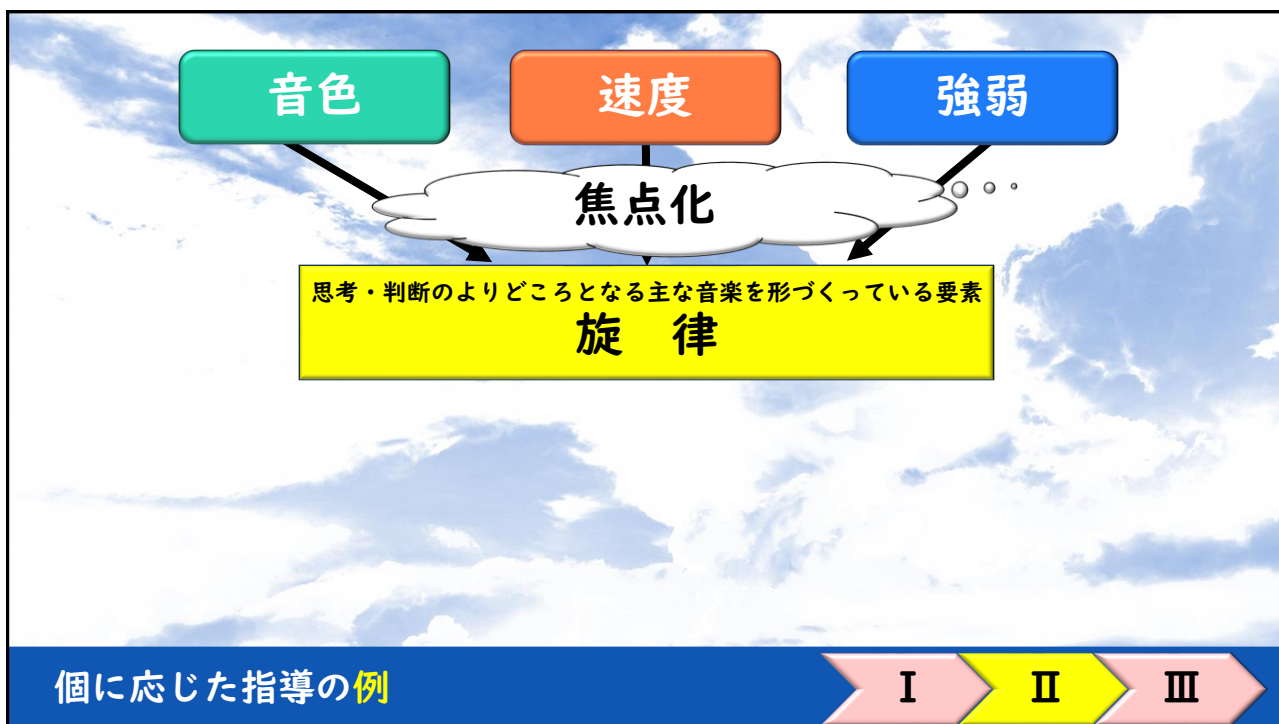
31



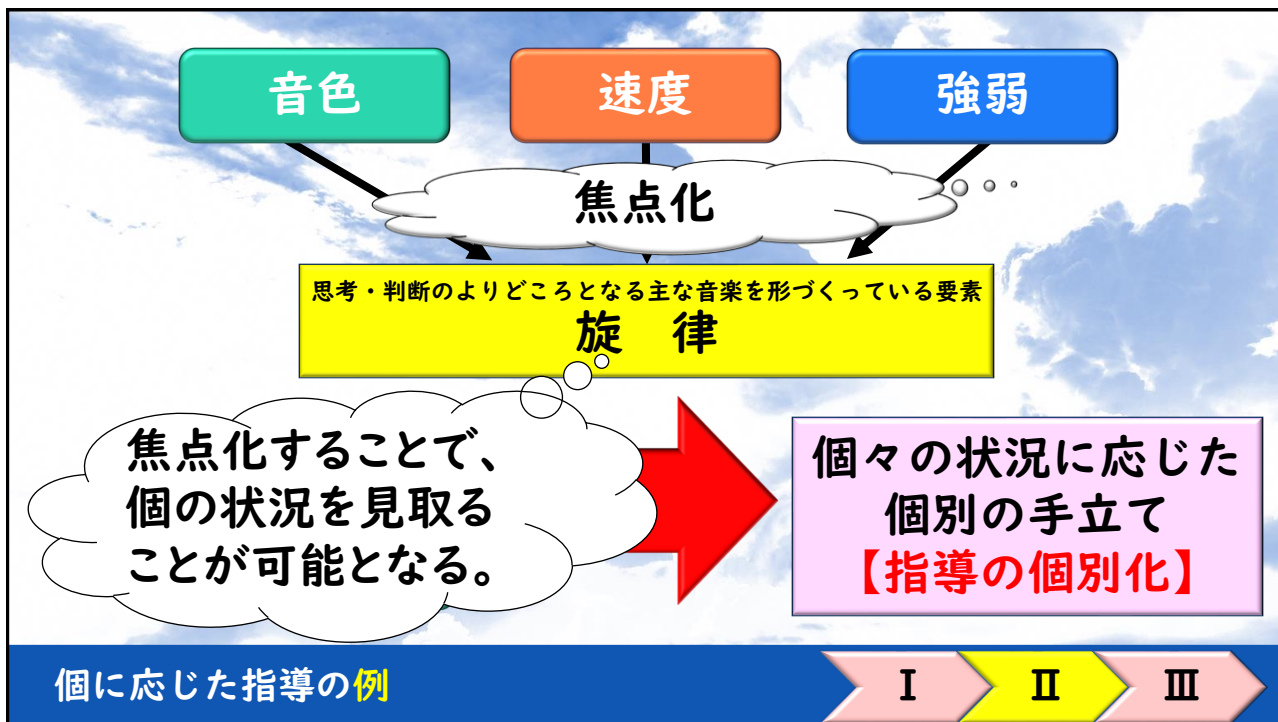
32



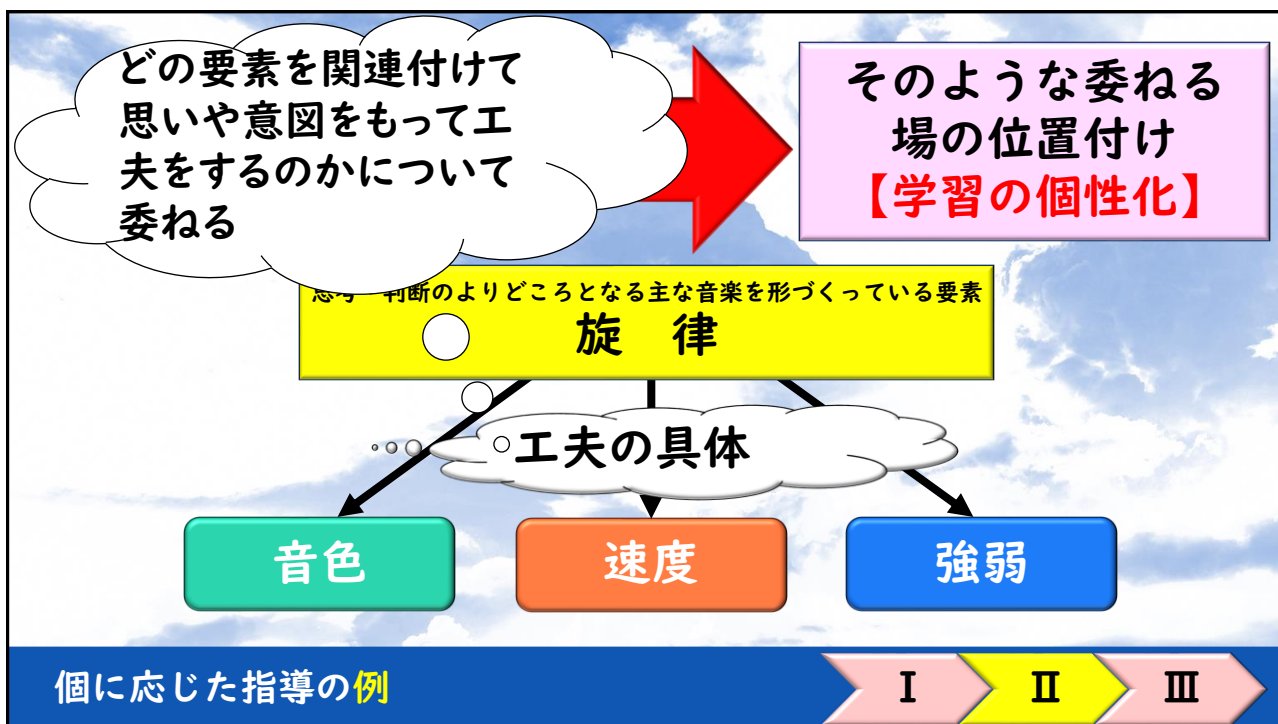
33



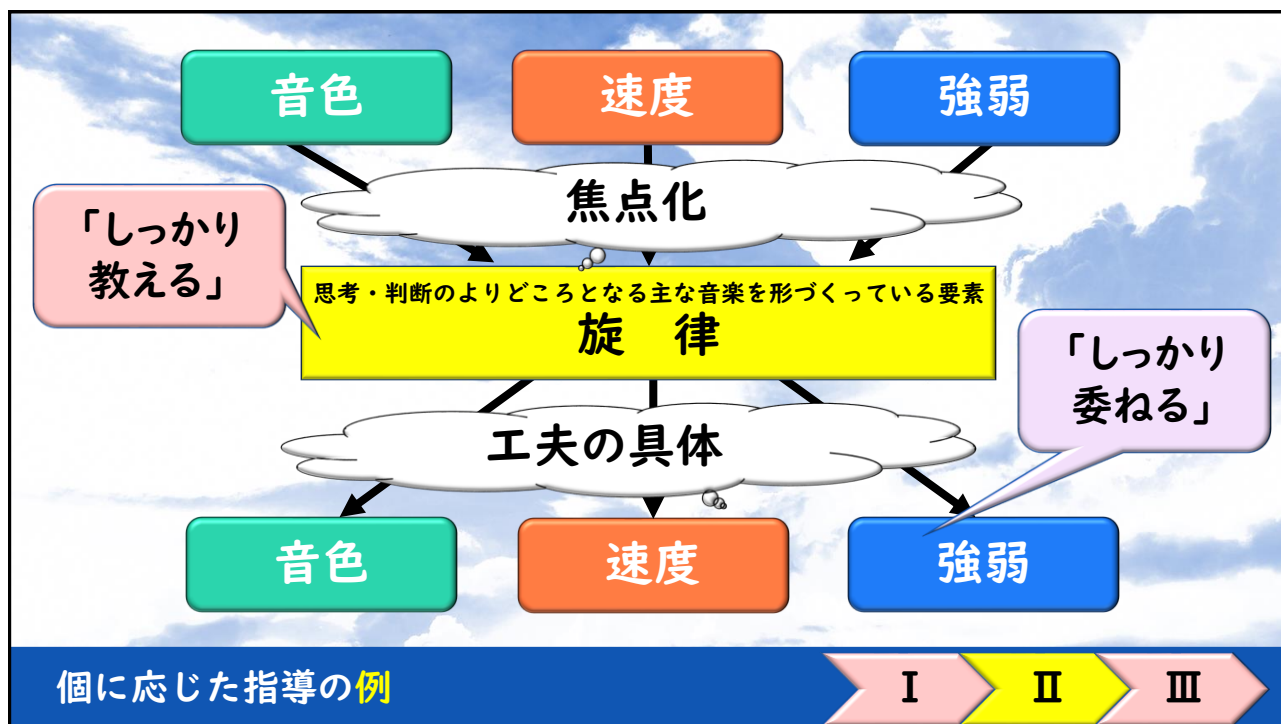
34



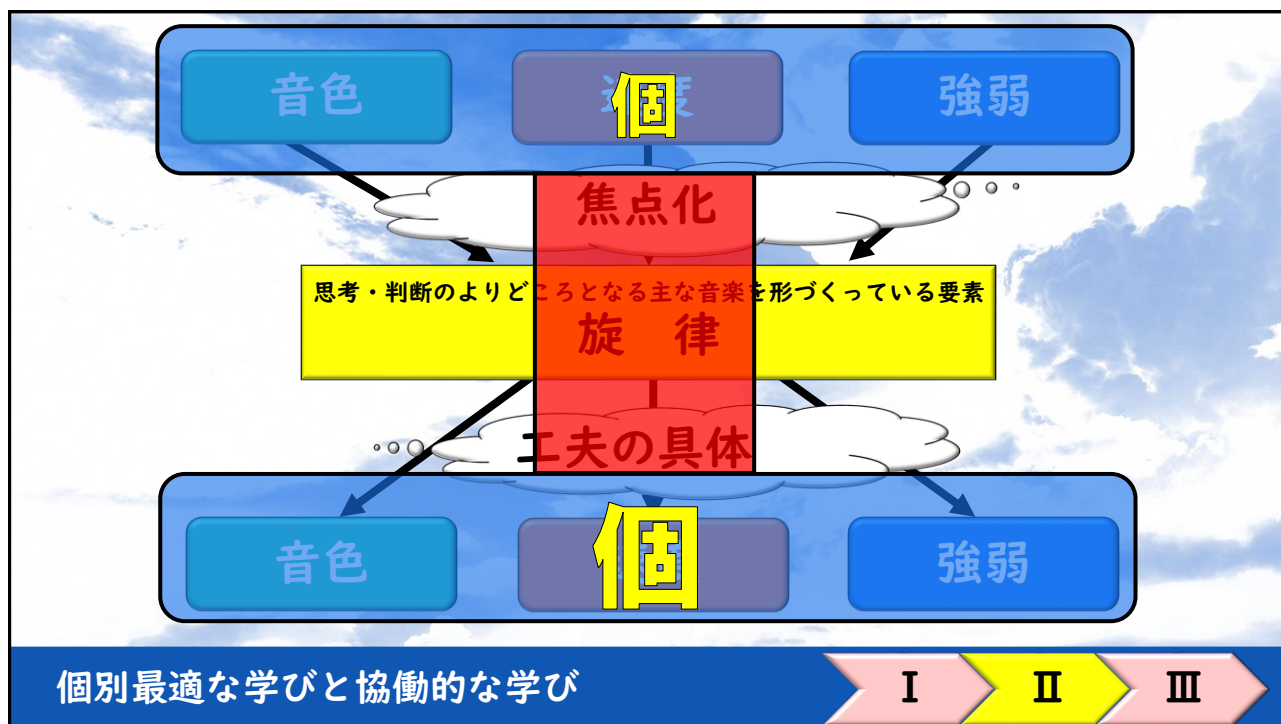
35



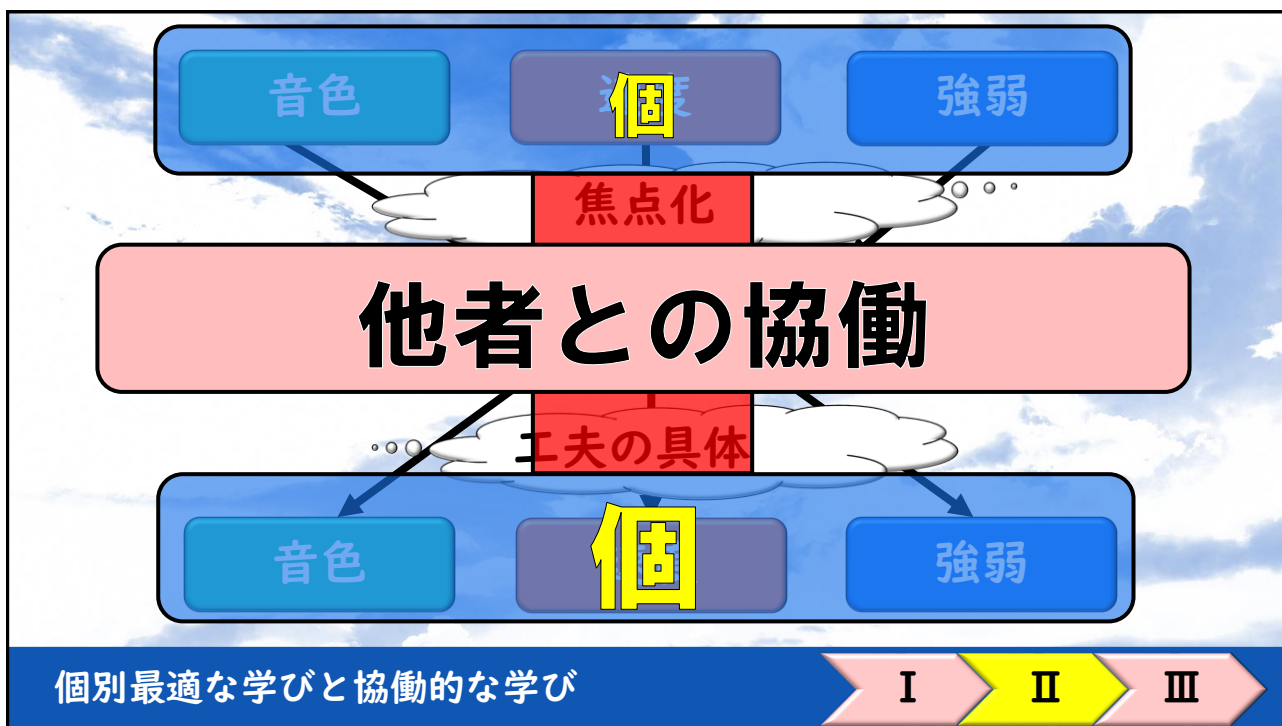
36



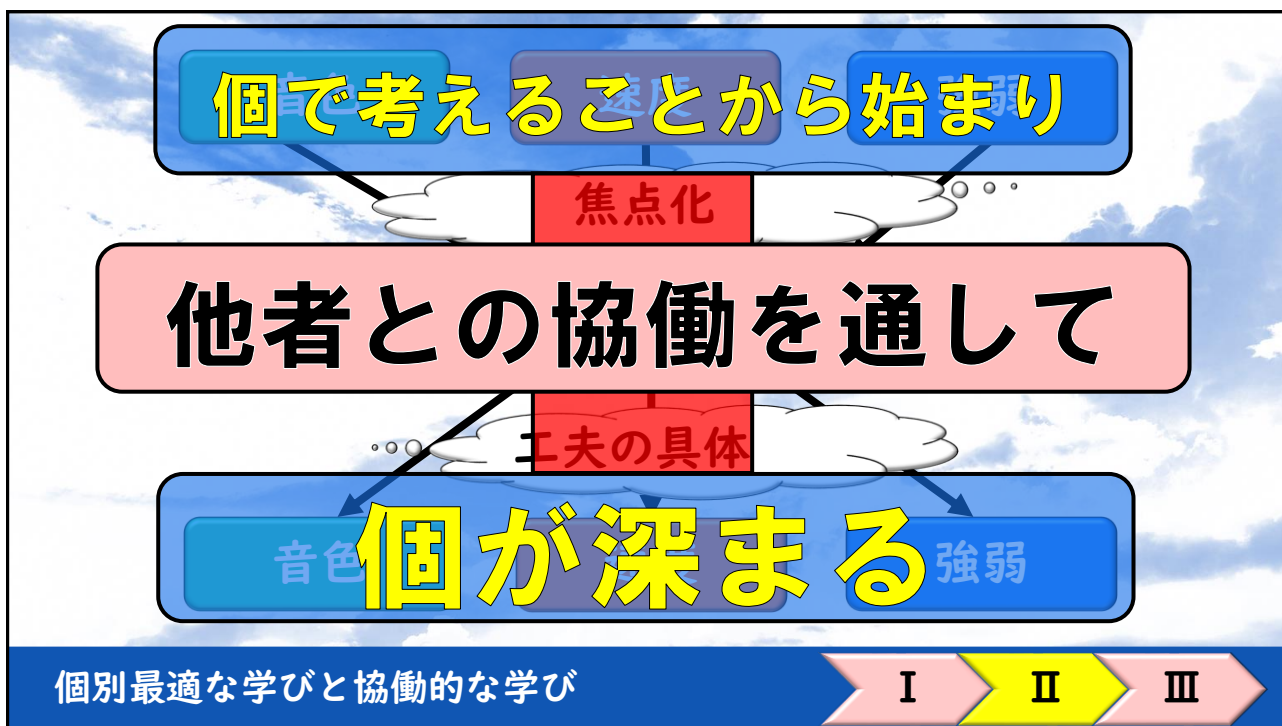
37



38

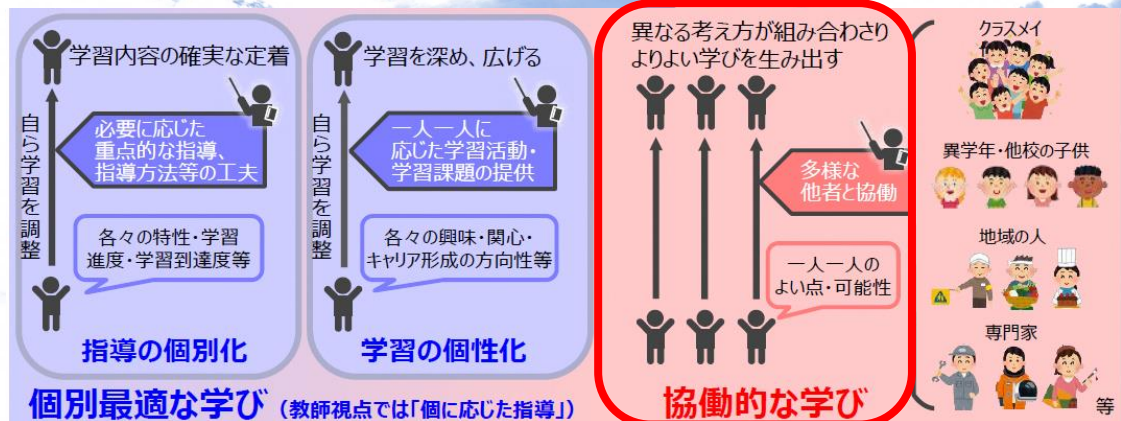


39



40

協働的な学び



教育課程部会における審議のまとめ（令和3年1月25日中教審）

個別最適な学びと協働的な学び

I

II

III

41

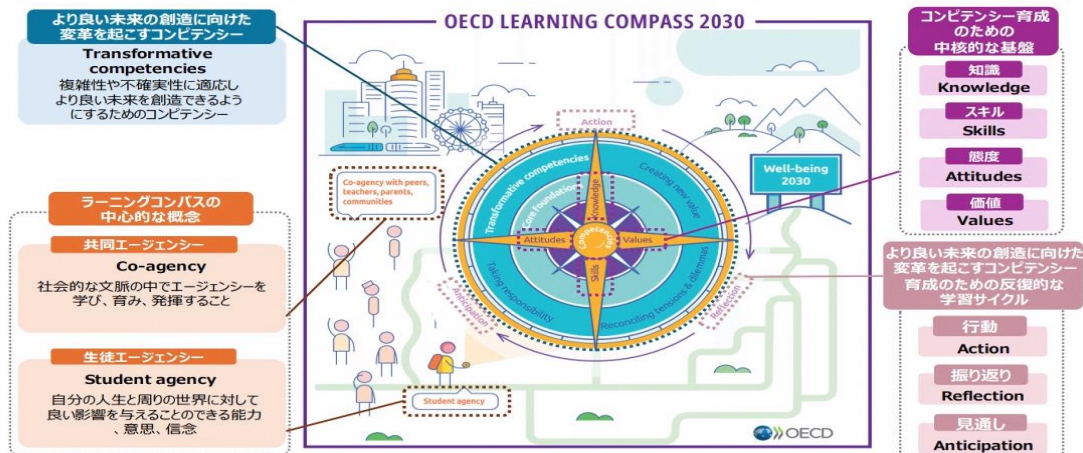
音楽科全体説明の内容

- I 生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育むための指導計画について
- II 個別最適な学びと協働的な学びの位置付けについて
- III 今後の方向性から

42

【参考資料①-5】諸外国の育成を目指す資質・能力における「態度や諸価値・非認知的能力」の位置づけ

- OECDのラーニング・コンパス※では、自分の人生と周りの世界に対して良い影響を与えることのできる能力等である「生徒エージェンシー」と、それを社会的な文脈の中で学び、育み、発揮する「共同エージェンシー」を中心的な概念として示す
- これらのエージェンシーを発揮し、自らの可能性を発揮できる方向に進むためには、「カリキュラム全体を通して学習するために必要となる基礎的な知識、スキル、態度及び価値」といったコンピテンシー育成のための中核的な基盤や、「より良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシー」を備える必要があるとされている



※：OECD Future of Education and Skills 2030プロジェクトにおいて作成された、教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組みを指す

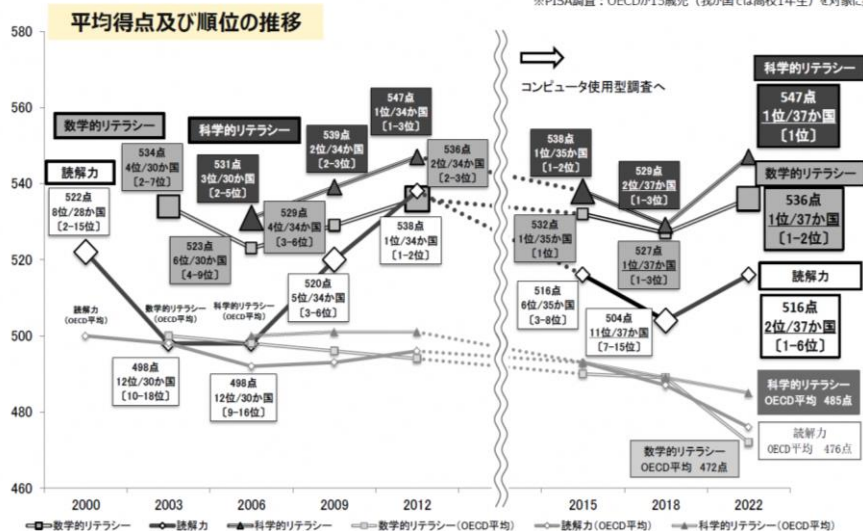
今後の方向性から

I II III

43

- ◆ 数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシー3分野全てにおいて世界トップレベル。前回2018年調査から、OECDの平均得点は低下した一方、日本は3分野全てにおいて前回調査より平均得点が上昇。

※PISA調査：OECDが15歳児（我が国では高校1年生）を対象に実施



37

今後の方向性から

I II III

44

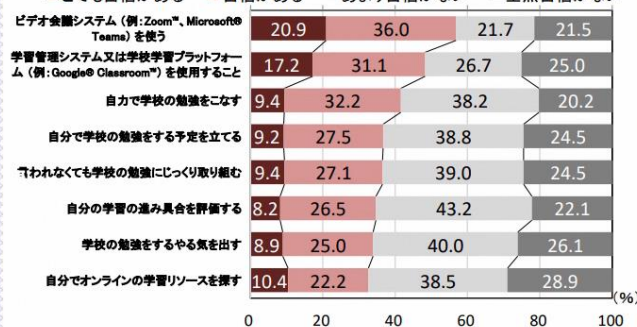
自律学習を行う自信

○学校が再び休校になった場合に自律学習を行う自信があるか、という質問に対する回答で、自信がないと回答した生徒が日本は非常に多かった。

生徒質問調査 問61 自律学習と自己効力感（日本）

「今後、あなたの学校が再び休校した場合、以下のことを行う自信はどれほどありますか。」

■ とても自信がある ■ 自信がある ■ あまり自信がない ■ 全然自信がない



「自律学習と自己効力感」指標

左の8項目の回答割合から指標値を算出。

OECD平均	0.01
34位 日本	-0.68

※OECD加盟国37か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、自律学習に対する自己効力感（自信）が高いことを意味している。

○感染症の流行・災害の発生といった非常時のみならず、変化の激しい社会を生きていく子供達が普段から自律的に学んでいくことができるような経験を重ねることは重要であり、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進により、自ら思考し、判断・表現する機会を充実したり、児童生徒一人一人の学習進度や興味・関心等に応じて教材や学ぶ方法等を選択できるような環境を整えたりするなど、自立した学習者の育成に向けた取組を進めていく必要がある。

今後の方向性から

I

II

III

45

音楽 第6学年 音楽づくり つくったリズムの特徴について言葉で表す問題例

・6 A 2（音源を用いた問題） 参考：導入部分と(2)

2 音楽づくりについて、(1)から(3)の問題に答えましょう。
さちこさんの学級では、先生がつくった伴奏のリズムにのって、4分の2拍子、4小節のたいこのリズムをつくる学習をしています。

まず、先生がつくった伴奏のリズムをききましょう。

伴奏のリズム			
ドーン	ドーン	ドーン	カッ カッ
♪	♪	♪	× ×

この伴奏のリズムをききながら、さちこさんは、次のようなリズムをつくりました。伴奏のリズムといっしょに「さちこさんのリズム」をきいてみましょう。

さちこさんのリズム			
ドン	ドン	ドッコドッコ	ド ドン コ
♪	♪	♪	♪

(2) 今度は、あなたが4小節のリズムをつくります。

【つくる条件】

- ・下の1から8のリズムを使う。
- ・同じリズムを2回以上使ってもよい。
- ・「さちこさんのリズム」とはちがうリズムをつくる。

まず、1から8のリズムをききましょう。

1 ド ドン コ ♪ ♪ ♪	2 (ウン) ドン ♪	3 ド ドーン ♪ ♪
4 ドッコドッコ ♪ ♪ ♪	5 ドーン ♪	6 カッ カッ × ×
7 ドン ドン ♪ ♪	8 ドン ドッコ ♪ ♪	

今後の方向性から

I

II

III

46

音楽 第6学年 音楽づくり
つくったリズムの特徴について言葉で表す問題例（続き）

音楽科 第6学年 A表現(3)音楽づくり(7) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ることについて問う問題

○A2(3) つくった4小節のリズムの特徴について、「伴奏のリズム」「変化」「くり返し」の言葉を1つ以上使って説明する問題
このような問題から、音楽づくりの活動を通じた思考力、判断力、表現力等の育成の状況について測る。

【通過率 87.1%】

(3)の正答例 ((2)でつくったリズム：8・4・3・5)
伴奏のリズムとは全ての小節でリズムが変わるようにして、前半ははずむように、後半は伸ばすように変化させた。「8」と「4」では「ドッコ」というリズムをくり返した。

(3) (2)で、あなたがつくった4小節のリズムにはどのような特徴がありますか。その特徴を、(1)の文章を参考にしながら考え、下の【使う言葉】を1つ以上使って、□の中に書きましょう。

【使う言葉】

伴奏のリズム 変化 くり返し

	あなたがつくった4小節のリズムの特徴をよう
答	

11

今後の方向性から

I

II

III

47

音楽 第6学年 鑑賞
民謡の曲や演奏のよさについて言葉で表す問題例

音楽科 第6学年 B鑑賞(1)ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くことについて問う問題

○音源を用いて民謡「ソーラン節」を聴き、曲や演奏のよさについて考え言葉で表す問題
このような問題から、鑑賞の活動を通じた思考力、判断力、表現力等の育成の状況について測る。

【通過率 80.3%】

(4) この民謡のよさを、かおりさんは、次のように考えました。
()に入る理由を音楽の特徴から考え、「歌声(声)」と「合の手」という2つの言葉を使って、□の中に書きましょう。

＜かおりさんの考え＞

この民謡は、みんなで仕事をがんばろうという気持ちが感じられる曲です。
なぜそう感じたのかというと、()

(4)の正答例
「はーどっこい」という合の手にいきおいがあって、歌声も明るく、とても明るい気持ちになるし、おうえんしているかんじがするから。

今後の方向性から

I

II

III

48

音楽 第6学年 歌唱

音楽を聴いたり楽譜を見たりして、音楽表現の工夫についての根拠を考え言葉で表す問題例

音楽科 第6学年 A表現(1) ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことについて問う問題
○他者の考えた表現の工夫について、その根拠を音楽を聴いたり楽譜を見たりして、旋律の特徴や曲全体の構造と関わらせて考え言葉で表す問題
このような問題から、歌唱の活動を通じた思考力、判断力、表現力等の育成の状況について測る。

【通過率 46.3%】

(3)の正答例

3段目の後半から、だんだん音が高くなり、4段目のはじめの音が、この曲の中で一番高い音になっているから。

(3) えまさんは、この歌の4段目の表現の仕方について、次のような思いをもちました。

わたしは、こいのぼりが風にふかれて勢よく泳いでいる様子が伝わるように、3段目から4段目へのつながりを意識して、4段目のはじめを一番盛り上げて歌いたと思います。

えまさんがなぜそう思ったのか、「音の高さ」や「3段目から4段目へのつながり」に注目して、旋律の持ちようから理由を考え、□の中に書きましょう。

3段目

4段目

た ち ば な か - お - る あ き - か ぜ に

た か く お - よ - ぐ や こ い - の ぼ り

答え

(5)

今後の方向性から

I

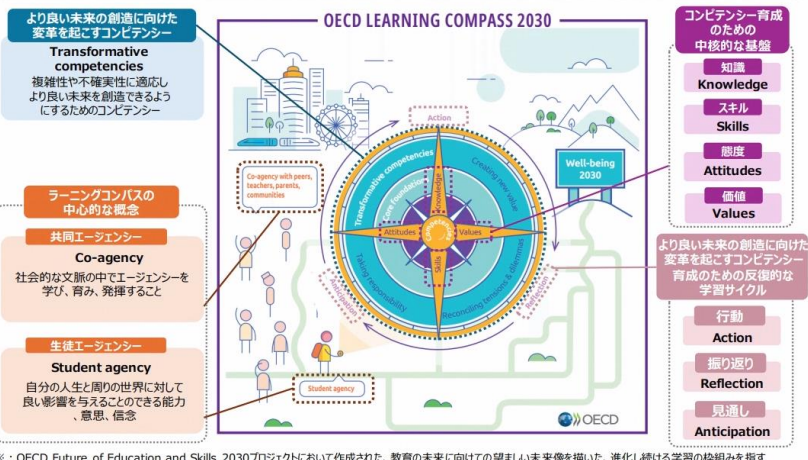
II

III

49

【参考資料①-5】諸外国の育成を目指す資質・能力における「態度や諸価値・非認知的能力」の位置づけ

- OECDのラーニング・コンパス[®]では、自分の人生と周りの世界に対して良い影響を与えることのできる能力等である「生徒エージェンシー」と、それを社会的な文脈の中で学び、育み、発揮する「共同エージェンシー」を中心的な概念として示す
- これらのエージェンシーを発揮し、自らの可能性を発揮できる方向に進むためには、「カリキュラム全体を通して学習するために必要となる基礎的な知識、スキル、態度及び価値」といったコンピテンシー育成のための中核的な基盤や、「より良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシー」を備える必要があるとされている



※：OECD Future of Education and Skills 2030プロジェクトにおいて作成された、教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組みを目指す

今後の方向性から

I

II

III

50

ウェルビーイングの向上について（第4期教育振興基本計画参考資料）

ウェルビーイングとは

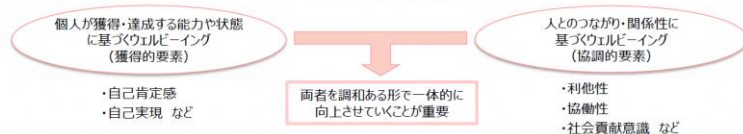
- 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感ぜられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

なぜウェルビーイングが求められるのか

- 経済先進諸国において、GDPに代表される経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいをつめる考え方が重視されてきている。
- OECD（経済協力開発機構）の「Learning Compass2030（学びの羅針盤2030）」では、個人と社会のウェルビーイングは「私たちが望む未来（Future We Want）」であり、社会のウェルビーイングが共通の「目的地」とされている。

日本発・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められる。



⇒日本の特徴・良さを生かし、「調和と協調（Balance and Harmony）」に基づくウェルビーイングを日本発で国際発信

【例：インドネシアG20教育大臣会合・議長サマリー】

（略）to work towards the achievement of balanced and harmonious oriented well-being and universal quality education by 2030.

17

今後の方向性から

I

II

III

51

令和7年度 小学校教育課程研究協議会（音楽科）

協議1：題材を通じた指導と評価の計画に係る研究協議

題材の内容や時間のまとまりを見通して、単位時間の役割や位置付けを明らかにしたり、どの時間に何を評価するのかを明確にしたりするためにどのような工夫をしましたか。

協議2：これからの実践に生かす「指導と評価の一体化」を図った授業づくり

題材や授業を通して、児童自身が学ぶ意義や喜び、成長を実感できる授業にするために、どのような授業改善が必要ですか。それに関わって、どのような実践（工夫）をしましたか。

52